



コミュニケーション

No.89

2015.3月号

Contents

- P2・3 園長あいさつ、こんにちは!あかちゃん
移動動物の紹介、訃報、飼育動物数
- P4・5 特集1 **様々な連携を目指して**
- P6・7・8 特集2 **高齢化する動物たち**
飼育レポート
動物病院から
- P9 ツキノワグマ共同研究
- P10・11 イベントレポート
- P12 飼育日誌、お客さまの声、かたばた通信



園長あいさつ

園長 小松 守

お正月明けの1月4日、北国秋田の冬の風物詩的存在になった「雪の動物園」がスタートしました。11月のシーズン開園を終え、ひととき静かだった動物園に再びお客さまの笑顔が戻り、「ああ、動物園はやっぱりお客さんがいるからいいんだ」と改めて実感しました。2006年から数え今年で10回目の開催ですが、雪に閉ざされがちな秋田の人々にとって動物園はどこか日常を忘れさせてくれるのかもしれない。動物園の役割として種保存や教育的側面が前面に出る傾向にありますが、はじめはいろいろな動物との出会いの中、「幸せ時間」を過ごす空間でありたいと思っています。40年間動物園にお世話になり、そんな思いに至りました。その延長線上に何かを感じ、学ぶ、教育的機能が発揮されればいいし、主人公である動物たちの「いのち」が途絶えないように種保存にも力を注がなければなりません。しかし、やはり最上位に置かれるべき役割は、動物を目の前にして人間性をリ・クリエートしつつ、生きている喜びを感じ取れる「幸せ空間」でありたいものです。1973年9月の開園以来、大森山動物園の入園者数は1000万人になろうとしています。100万人を少し超える秋田県人口で考えると、全県民が10回ご来園いただいたこととなります。動物と語らい、ふれあえる地域の動物園として、家族や恋人らが集う「幸せ空間」をこれからも目指していきたいものです。

こんにちは! あかちゃん



今回の「こんにちは!あかちゃん」では、大森山動物園で8月以降に生まれた赤ちゃんを紹介します。



チリーフラミンゴ

8月12日、2年続けてチリーフラミンゴが繁殖しました。ヨーロッパフラミンゴのヒナ3羽と共に元気に育ちました。

アカカンガルー

アカカンガルーがベビーラッシュ。昨年の8月10日から12月までの間に、あわせて4頭の赤ちゃんがお母さんの袋から顔を出しました。8月に生まれた子どもはもうお母さんの袋に入れなくらい大きく成長しています。



大森山を後にした動物たち

9月25日、コクチョウのオス、カールとメスのディップが京都競馬場に旅立ちました。レースには出ませんが、京都競馬場の中にある大きな池が新しいおうちです。既にいる白鳥たちにすぐに溶け込み、リーダー的な存在になったそうです。



コクチョウ



ワライカワセミ

11月8日、ワライカワセミのメスが東京の多摩動物公園に嫁入りしました。楽しそうな鳴き声で人気がありましたが、大森山動物園の展示場からほ姿を消しました。新天地で繁殖に貢献して欲しいと思います。

元気でね!

仲間入りした動物たち

よろしくね!



カピバラ

10月8日、埼玉県こども動物自然公園からカピバラのお嬢さんがやってきました。名前はコムギ。一昨年生まれたオスのカピバラです。コムギよりも大きなメス4頭とお見合いを重ねて、同居がうまくいくことを期待しています。

ゴマフアザラシ

12月20日、3園館連携(後述)の取り組みとして、「雪の動物園」期間中、鶴岡市立加茂水族館からゴマフアザラシのオス「あらし」君をお借りしました。あらし君にとっては初めての外出で、慣れるまでに時間がかかりました。ペンギン舎に間借りしての生活では、あらし君がプールに入ると先住者のペンギンたちが大騒ぎです。



エミュー

11月19日、東京の多摩動物公園からエミューのメスがやってきました。ワライカワセミとの交換です。それまで大森山にはミーとケーというオスしかいなかったもので、エミューの初繁殖に向け、担当も合いが入ります。



仲間入り予定の動物たち

待ってるよ!



レッサーパンダ

3月の開園に向けて、レッサーパンダのオスを導入する予定です。ゆりの旦那さんです。

飼育動物数 ～2014年12月末現在～

類	個数	点数
哺乳類	51種	332点
鳥類	40種	191点
爬虫類	11種	33点
両生類	2種	3点
魚類	3種	47点
無脊椎	1種	16点
合計	108種	622点

ⓧ 訃報 忘れないよ...



○アカカンガルー
モモタロウ オス
デニロ亡き後、立派な体格でカンガルーの群をまとめてきたモモタロウ。カンガルーに特有な病気「カンガルー病」にかかり、顔が腫れてきたため、治療を続けていました。薬を注射すると良くなりますが、また腫れてを繰り返していました。残念ながら10月5日に死亡しました。



○トナカイ
ロナ メス
昨年の6月7日に生まれたロナ。大森山では久しぶりのトナカイの繁殖でした。生まれてすぐはなかなかおっぱいが飲めず、担当者が苦労して粉ミルクを飲ませたこともありましたが、じきに活発に動くようになり、自力で母乳を飲めるようになりました。順調に成長していた矢先の10月下旬、体調を崩し、11月1日に早すぎる死を迎えました。



○カナダヤマアラシ
メープル メス
15年前に大森山動物園にやってきました。カナダ出身のメープルは、北国秋田の気候に適したのか、たくさんの子どもを産み、カナダヤマアラシの繁殖に貢献した優しいお母さんでした。12月10日、静かに息を引き取りました。



○レッサーパンダ
陸 メス
大森山動物園で初めて生まれたレッサーパンダの陸。数年間はオスと思われていましたが、数年後調べ直したらメスであることが分かった個体です。ユウタとの間に3回ほど出産を経験し、一昨年、無事に1頭の子ども(ゆり)を産み、育てました。昨年の3月頃から歩き方がおかしくなり、5月には両方の後ろ足を引きずるようになってしまいました。担当の懸命な看病もあり、頑張って生活していましたが、11月8日長い闘病の末、亡くなりました。

このほかにもマーコールやキョン、ホンドリス、モモイロペリカンなどが亡くなっています。

様々な連携をめざして

動物園はお客さまに動物展示やふれあいサービス等を提供し楽しんでいただく場ですが、広い意味では他の様々な施設と有機的につながり連携することでより効果的に機能する都市装置とも言えます。こうした考えを背景に、大森山動物園は運営、経営方針の一つに様々な施設や機関などにつながり、連携で地域に根を下ろし、当園だけではできない様々なことに挑戦していきたいと考えています。これまで、企業や農家、地域の秋田公立美術大学(旧秋田公立美術工芸短期大学)や高校、地域で組織された淡水魚研究会など、様々な連携を進めてきました。今回は新たに始まった隣接する水族館と連携した「日本海 クラゲ・イヌワシ・シロクマライン」と、地域の秋田市立浜田小学校とともに歩んだ牧草栽培の2つ話題をお届けします。(園長 小松 守)

3園館連携

飼育展示担当 主席主査 宇佐美 均



3園館連携協定書への調印式風景

平成25年9月1日、大森山動物園の40周年事業を記念し、新たな取り組みが始まりました。「東北日本海動物園・水族館連携」、愛称は「日本海 クラゲ・イヌワシ・シロクマライン」です。

これは、東北の日本海に位置し、野生動物の飼育展示を行っている施設が連携・協力し、各施設の賑わい創出や地域の活性化、飼育技術の向上等を推進することを目的とした取り組みです。

現在、山形県の鶴岡市立加茂水族館、秋田県の男鹿水族館GAOと秋田市大森山動物園の3園館が連携し、各施設で専用のPRブースを設け、パンフレット等の常設やタイムリーな情報を掲示するほか、専用ホームページも開設し3園館のイベント情報や魅力等の情報発信を積極的に展開したり、スタンプラリーを行い、集客や人材交流による地域の活性化につなげるイベントも開催しています。

また、お客さまの利用実態を分析するためにアンケート調査も行い、居住地や各施設の利用日、ホームページ利用状況等の情報を収集し、よりお客さまの動向に即した効果的なPRやサー

ビス展開に役立てています。

今年度スタンプラリーの結果では、6月に加茂水族館をスタートしたかたが最も多く、3園館全て周り終えた日数では、約3ヶ月間を要したかたが多数でした。これは、加茂水族館が6月にリニューアルオープンし、その後、夏休み等を利用して他2施設を訪れたものと思われ、短期間で全てを利用するより、周辺の観光も含め一施設に十分な時間をかける利用傾向が読み取れました。

賑わい創出への取り組み以外では、アシカの飼育管理とトレーニング手法等について、各施設の海獣類担当による研修会を開催し、情報交換や人材交流も行っています。また、希少淡水魚の保全や展示に関する研修会も計画し、3園館が持っている様々な技術の共有についても協力関係を深めたいと思います。

今後も、飼育技術の連携を含め、新たなPR手法やイベントを検討しながら各施設と地域の活性化につながるよう積極的な連携を推進したいと考えています。



専用ホームページ



専用PRブース

浜田小学校との連携・スタックス共同栽培

飼育展示担当 主査 山上 昇

1999年から秋田市立浜田小学校3年生を対象にスタックス栽培を続け、2014年で16回目となりました。この活動のきっかけは、ゾウなどの草食動物の糞を利用し、牧草を育て、動物に食べさせる「自然循環型リサイクル」をもっと広く知ってもらいたいという動物園の思いと同年から「総合的な学習の時間」の研究に取り組み始めたばかりの浜田小学校の思いが一致したことです。



播種作業

スタックスとは、飼料用トウモロコシの種類で、成長が早く、播種後約1ヶ月半で1m程度の草丈となります。冷涼な気候でも成育は良く、寒高冷地での収量がもっとも高く、栄養価においても糖分、蛋白質が豊富で、動物の嗜好性が大変良いとされている飼料用作物です。

皆さんが想像する畑仕事は、ただ種を蒔き、成長した食物を収穫すれば良いというのではなく、土作りに始まり、種蒔き後の雑草取り等、やらなければならないことが多いということではないでしょうか。

連携元年となった1999年は、種蒔きは順調に行いましたが、成長する牧草の観察の傍ら雑草取りに苦戦し、収穫時には、子どもの背の高さ以上に成長したスタックスを目の前に草刈り鎌を片手に持ち、悪戦苦闘しながらやっとの思いで収穫していました。どの子も「草刈り鎌」初体験で、使い方を説明したものの、見ている方が緊張するほどのぎこちなさだったのが思い出されます。毎年、体験する子どもは15名前後と少人数ですが、個性豊かで、動物園職員とのコミュニケーションを楽しみながら、汗だくで頑張っています。

あれから時が経つのは早いもので、今年で16

回を数えました。対象は、3年生のままですが、子どもたちの中には、兄弟・姉妹で体験した人も年ごとに増えています。中には、体験前にもかかわらず、大まかな作業の流れも知っている子どもがいて、短いですが歴史が感じられます。その分、課題もいくつか挙げられます。ここ数年、先生がたから出てくるのが、子どもたちに「おいしいとこ取り」ではなく、食物栽培の原点である畑作りから体験させたいという思いです。確かに、これまでは、種蒔き前の準備は、動物園側で行っており、子どもたちは、種蒔きや収穫、その後ゾウが食べているところを観察する「喜び」部分だけ体験していたのが現状です。これについては、私も同意見であるため、浜田小学校とのスケジュールを調整し、課題を克服しながら食物栽培を継続していきたいと考えています。



収穫作業



運搬



餌やり体験

高齢化する動物たち

日本では平均寿命が男女ともおよそ80歳を超え、元気なお年寄りがたくさんいます。これは、生活環境が整い、衛生的な生活を送れるようになったこと、医療技術の目覚ましい発展によるものです。

一方、動物の世界でも寿命が伸び、高齢な動物が増えています。飼料の開発を含む飼育技術の向上や獣医療の充実等、数十年前に比べると比較にならないほどです。ペットでは人間と同様に、生活習慣病や痴呆等の病気が見られ、問題化しています。

動物園で飼育している動物は基本的には野生動物で、ペットや家畜等とは異なり、未知な部分が少なくありませんが、それでも最近は大学等と共同研究を行うことでいろいろなことが分かってきました。

ところで、動物の寿命はどれくらいでしょうか？動物によって異なるのは当然ですが、小さい動物よりも大きい動物の方が長生きすることは何となく分かりますね。また、一般的に、野生下よりも飼育下の方が長生きします。1年ほどで死んでしまう野生のネズミ等がいる一方、飼育下のゾウでは50～60年、また、100年以上生きる鳥やカメもいるようです。

このような様々なデータから動物の平均寿命というのが示されています。例えば、肉食獣は15～20年が目安

飼育レポート①

シニアクラスの大型肉食獣

飼育展示担当 佐藤 正

大森山動物園の猛獣舎では現在大型肉食獣を4種飼育しています。その中でも年齢が15歳を超えるシニアクラスの大型肉食獣は3頭います。15歳は人間にすれば76歳くらいと言われています。今回はシニアクラスの大型肉食獣について紹介したいと思います。

大森山動物園では、ライオンのラガー（オス）15歳、マンゴー（メス）17歳、アムールトラのアシリ（メス）15歳の3頭がシニアクラスの大型肉食獣です。ライオンのマンゴーは、人間の年齢に換算すると84歳くらいと、かなりの高齢になります。

高齢になって急に動きが悪くなったり、食欲がなくなるなどといった見た目の変化はそれほどありません。なぜなら大型肉食獣の場合、自分の体調の悪さや衰えなどを周りに悟られないようにする習性があり、弱さを見抜かれた場合自分の死が待っているからです。動物園にいる大型肉食獣も一緒に、飼育員に弱さをみせないように生活をしているので体調不良に気がついた時には手遅れになっている場合もあります。しかし毎日の飼育に携わることで、少しずつ運動量が減っ



オスライオンのラガー

メスライオンのマンゴー

てきたり食欲が落ちてきたりなどの変化が見えてきます。大型肉食獣の場合麻酔をかけなければ検査等ができないため、定期的な健康診断を行うのは難しく、麻酔をかけるにしても大型肉食獣にはかなりの精神的ストレスや肉体的ストレスがかかるため、麻酔をかけた検査はなかなかできません。そこで、日常の観察が重要になります。筋肉の衰えによる足腰の状態、老化に伴う関節の変形などから起こる運動障害、被毛や皮膚の変化、採食や飲水の変化、糞尿の状態など、外見に判断できることを注意深く観察してあげることが必要です。そして早く異常を見つけて対処することで、1日も長生きしてもらいたいと思います。



アムールトラのアシリ

飼育レポート②

チンパンジーの「ジェーン」

飼育展示担当 松井 健

大森山動物園では6頭のチンパンジーがいます。その中で最高齢はジェーン（メス）という個体で47歳になります。日本国内の動物園では324頭のチンパンジーが飼育されており、上から数えて7番目に高齢のチンパンジーです。

このジェーンは6頭の中でも頭のいい個体です。かつて、チンパンジーの展示場にけやきやプラタナスの木が植えられていて、その木を守るため周りを電柵で囲っていましたが、ジェーンは電柵の線と線の隙間を体をねじるようにしてジャンプし、うまくすり抜け、木の葉や皮を食べていました。また夕方には寝室に毛布を入れるのですが、1枚入れると器用に体全体に毛布を巻きつけ、2枚入れると1枚を下に敷いて、もう1枚を体の上をかけ、まるで布団に入るようにして寝ています。他の個体はもらった毛布を体の下に敷いて寝るだけです。

さすがのジェーンも年齢には勝てず、このごろはお腹も出てきて、台から降りる時は体を重そうにして降りてきます。

ジェーンにはボンタという旦那さんがいて、ボンタも42歳の高齢です。

実はボンタの場合4年くらい前までは、冬でも雪の積もる展示場にためらいもなく出ていたのですが、最近は寒いと出て行かなくなりました。また、まんまタイムの時には1メートルを超えるジャンプをしていたのが、最近では10センチくらいしか飛べなくなり、急激に衰えたように思います。しかしジェーンは、まだそんなこともなく、元気に頑張っています。

このように元気なジェーンですが、もっともっと長生きをして日本一を目指してもらいたいものです。

毛布2枚で就寝準備



毛布1枚の場合



毛布2枚で就寝

飼育レポート③

アシカの「スミコ」

飼育展示担当 千葉 可奈子



アシカのスミコ

スミコは27歳、人間の年にするると80代くらいのおばあちゃんアシカです。

アシカも年を取ると、体力や筋力が衰え、疲れやすくなります。また、目が見えなくなったり、耳が聞こえづらくなってきます。

スミコは2歳の時に大森山に来て、今まで大きな病気もせず、健康に過ごしてきましたが、昨年から変化が起き始めました。スミコの右目に白い丸が。獣医師に診てもらおうと「白内障」にかかっていることが分かりました。高齢アシカは必ずといっていいほど発症する白内障。早いと20歳でなることもあります。スミコの年を考えると、いつなってもおかしくないと感じてはいましたが「ついに出了か」というのが本音でした。朝、獣舎に入る時「スミ、おはよう」と声を掛けて入り、変化を示さないスミコに「気分屋だからな」と気にせずに近寄っていくと突然スミコが驚いて声を上げました。突然の行動にこちら驚き、その時「さっきの音がけ、聞こえなかったんだ」と聴力も衰えてきていることに気がきました。それ以降は大きめに音を立てて獣舎に入り、ス

ミコが気付くのを確認してから作業するようにしました。最近では、朝うつぶせに寝ていることが多く「起きて」と言っても「え〜」という顔でこちらを見ます。「ごはん食べないの?」と魚を見せると「この体勢のまま食べたい」と言う顔でうつぶせ状態のまま。「喉に詰まるから、そのままだとやらない」と大好物のサバを見せると、いそいそと起き上がってサバを食べます。通常の餌の種類はホッケとアジですが、食が細くなり、加齢とともに痩せてきたスミコに少量でカロリーを取ってもらいたいという思いがあり、サバも餌に加えることがあります。

スミコにはまだまだ元気でいてもらいたいと思います。

ⓧ 訃報

2015年1月31日、スミコが亡くなりました。秋田の1月では珍しくお日さまが降り注ぐとても天気の良い日でした。人も動物も、加齢に伴う衰えは止めることはできません。しかし、少しでも長く生きてもらいたいと思い、出来る限りのサポートを頑張ってきましたが、突然のお別れとなってしまいました。



イヌワシの鳥海

+ 動物病院から 長老のイヌワシ

獣医師 高橋 拓

動物病院では、足腰が弱くなったり、自力で採食できなくなった高齢動物の管理を行っています。その中でも最高齢の動物がニホンイヌワシのオス、「鳥海」です。鳥海は1970年6月に野生で保護されました。当時の飼育場所である千秋公園時代の頃から現在に至るまで秋田の動物園を見守ってきました。その間、動物園で繁殖に向け取り組んできましたが苦難の連続でした。2010年同じく野生で保護されたメスの「西目」との有精卵を取ることに成功しました。しかし、孵化寸前で成長が止まり、貴重な野生個体の遺伝子を持つ鳥海と西目ペアの第1子は生まれることはありませんでした。そして、翌年の

繁殖に期待していたところでしたが、高齢のため足腰が弱り、また、白内障で眼も不自由になったため、ペアでの自然繁殖は不可能となりました。2012年4月、突然右脚が動かなくなり病院へ入院することになりました。その後、症状は回復したものの、自力での採食が大変になったため、病院で今後の余生を過ごすこととなりました。

現在、年齢は44歳で日本一高齢のニホンイヌワシです。寿命には逆らうことはできませんが、もう少し長生きしてもらい世界一高齢のニホンイヌワシとして記録されることを目指し、日々の管理をしていきたいと考えています。

ツキノワグマ共同研究

冬眠(冬ごもり) クマの体温を知りたい

園長 小松 守

ツキノワグマは冬眠する動物として知られていますが、冬眠中のこと、特に体温がどのように変化していくのかなどよく分かっていません。動物のことを調べることも動物園の大事な仕事の一つですが、猛獣であるクマの体温を簡単に測ることはできず、何とかならないものか頭を抱えていました。

そんな中、牛などの動物で無線機器を使い体温データ計測を行っている岩手大学と共同研究の話が2013年に持ち上がり、冬眠中のツキノワグマの体温測定を試みることにしました。同年に行った試験的なクマ腹腔への埋め込みでは、機器のトラブルから20時間だけの電波確認に止まりましたが、クマ体内の体温計測が可能であることが分かりました。その後何度かの検討や試験を繰り返し、2014年12月に電波発信できる体温計(写真)を外気温に影響されにくいツキノワグマの稔君(オス、14歳、体重約120kg)のお腹の中に埋め込みました。

体温計は、6分間隔で細かな体温データを動物園内に張り巡らされたネットワークを通じ動物園の基地PCまで送ってくれました。その結果が右図のグラフです。冬眠に入る前(12月10日)の稔君の体温は約37°Cでしたが、冬眠に入り始め、体を丸め動かなくなると次第に下がり、5日目以降には34.5~35°C位で落ち着くようになりました。クマ室外気温は約0°C前後でした。

クマによる冬眠体温計測の国内例は未だないようです。海外での数少ない発表例(2011年SCIENCE:クロクマの冬眠体温:体重約100kg)では冬眠に向かうと38°Cくらいあった体温が次第に34~35°C位に下がった報告と同じような推移でした。

残念ながら埋め込み体温計の不調があったようで、1週間程度の計測しかできませんでしたが、冬眠に入る時期での体温が変化する貴重なデータを得ることができました。

食べ物がない寒い冬、クマたちは体温を下げることで無駄なエネルギーを使わず、冬を乗り切ろうとしている様子を実際の体温計測値から読み取れます。動物のからだの不思議に少し踏み込めたように思えます。

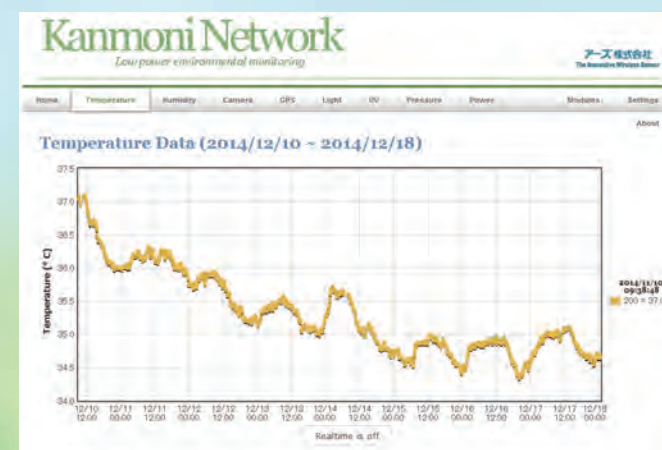


冬眠中のツキノワグマ「稔」



埋め込まれた
発信器付き体温計

冬眠に入る時の体温データ



10/12・13 秋の動物ふれあいフェスティバル



大森山動物園の人気イベント「秋の動物ふれあいフェスティバル」を2日にわたって開催しました。名物となりつつあるどうぶつパレードでは、大観衆に囲まれながら動物たちが堂々行進。12日には、国民文化祭被災地児童招待事業として東日本大震災で被災された宮城・岩手の3市町からのお客さまをお迎えし、青空の下動物たちとのふれあいをお楽しみいただきました。このほか、動物園裏側探検や、「ミルヴェンジャー7」が登場するウォーククイズなどの特別イベントに、たくさんのお客さまにご参加いただきました。

10/19 塩曳潟の水生生物調査



採捕した生物を調査

地びき網を使った作業

大森山動物園内にある天然の沼（塩曳潟）で希少魚類を含む水生生物調査を行いました。市民調査ボランティアを募集し、計20名の参加がありました。調査は秋田淡水魚研究会の指導の下、地びき網や定置網を用いてボランティアの皆さんに引いてもらいました。当日は天候にも恵まれ、希少魚類のゼニタナゴ3匹、シナイモツゴ35匹、キタノアカヒレタビラ11匹をはじめ計220匹の魚類と9匹のアメリカザリガニを採捕することができました。参加者全員が沼に希少魚類が生息することを確認でき、動物園の保護活動に関心を持ってもらうことができました。また、参加者は初めての地びき網に興味津々で、一生懸命に引っ張っていたのが印象的でした。

11/16 どうぶつサイエンス



動物の皮膚に触ってみました

カメの甲羅はこんな感じ

自然科学学習館との共同企画「どうぶつサイエンス」を行いました。年に2回行われる動物の不思議について学ぶイベントの後半のテーマは「表皮のひみつをさぐる」でした。今回は29名の参加があり、いろいろな動物の皮膚や毛、羽などについて学びました。ヤマアラシの毛の堅さや仕組みを実感したり、タナゴのオスの婚姻色を観察したりしました。園内を見終わった後、サプライズとしていろいろな動物に登場してもらい実際に近くで見たり、触ったりして皮膚の感触を確かめてもらいました。標本を用いた説明では、カメの甲羅は骨と一体になっていることに皆さん驚いている様子でした。

11/22 「いい夫婦の日」イベント



6回目の開催となる「いい夫婦の日」イベントを開催し、18組のご夫婦に参加いただきました。ご夫婦一緒に干支のヒツジや、アカコンゴウインコとの記念撮影を行ったほか、普段は入れないカピバラやキリンの施設内でエサやり体験をするなど、大人の動物園を満喫してもらいました。

また、午後にはチンパンジー「J太郎」の9歳の誕生日会もあり、参加者が持ち寄ったリンゴやバナナなどの果物を詰め合わせて「J太郎へプレゼント」しました。当日は晴天の中、穏やかな雰囲気の中動物園を楽しまれ、ご夫婦にとって良い記念になったことと思います。

11/30 さよなら感謝祭



ミルヴェンジャー7ショー

セレモニーの様子

お客さまと動物たちへの感謝を込めて「さよなら感謝祭」を開催しました。ビジターセンター動物園エリアで行ったセレモニーでは、今年亡くなったレッサーパンダなど25種80点の動物に慰霊の献花を行い、動物園の運営にご協力いただいた団体や学校に感謝の花束を贈呈しました。今回から、「動物園へのひとことメッセージ」として、地域の学校の児童・生徒から動物園での思い出や、勉強して飼育員になりたいといった将来の夢などを発表してもらいました。

また、秋田銀行同志会本店支部および職員組合本店支部の皆さまから、動物園イメージキャラクター「オモリン」の幟50本を寄贈していただきました。

セレモニー終了後にはお楽しみ抽選会を行い、多くのかたに参加いただいたほか、園内ではミルヴェンジャー7のステージショーも開催され、笑顔あふれる賑やかな通常開園最終日となりました。

12/25・1/31・2/1 なかいちウインターパーク「移動動物園」



秋田市中心市街地活性化のイベントの一つとして、なかいち・にぎわい広場で移動動物園を開催しました。移動動物園も3年目を迎え、これまでの経験と職員の協力体制もあり、無事に終えることができました。初日となった12月25日は、市内の小中学校の冬休み前の平日だったためか、午後1時から3時までの来場者は286名。やや賑やかさに欠けるものの、動物たちとゆっくり過ごすお客さまの笑顔が見られ、1～2月の雪の動物園をPRできました。残りの2回は土日開催で行列ができるほどの盛況ぶりとなり、「冬のあったか動物園」を届けることができました。

今後のイベント

平成27年3月21日(土)
通常開園日
※平成27年11月30日(月)まで
(通常開園期間中は無休)

12/23 クリスマススペシャルイベント「動物園でクリスマス！」



動物たちとハッピークリスマス

動物たちにクリスマスプレゼント

大森山動物園で初めてのクリスマスイベントを開催しました。閉園中の動物園で動物たちと一緒にクリスマスを楽しむと同時に、大切な人と特別な時間を過ごして素敵なクリスマスの思い出を作ってもらおうと企画しました。定員40名のところ57組182名の応募があり、13組41名のかたが大森山動物園からのクリスマスプレゼントに当選しました。

当日は、動物たちに餌をプレゼントしたり、クリスマスの雰囲気の中で動物たちと記念撮影やふれあいを行うなど、12組38名の参加者は、時間いっぱい動物たちとのふれあいを満喫しました。このほか、スペシャルランチやケーキを食べ、普段の動物園では体験できないイベントが盛りだくさんで、特別なクリスマスをお楽しみいただきました。

1/4～2/28の土日祝 雪の動物園



トナカイのおさんぽタイム

ゴマフアザラシの「あらし」

今年で10回目となる「雪の動物園」を、1月4日から2月28日までの土日祝日に開園しました。

雪の動物園期間中では、今年の干支にちなみ「ヒツジの干支展」や昨年好評だった「書きZOO(ず～め)」を実施。('書きZOO(ず～め)」は1月末まで)

また、3園館連携の取り組みで鶴岡市立加茂水族館からゴマフアザラシの「あらし」君をお借りし、ペンギン展示場に登場してもらいました。大森山動物園でゴマフアザラシを展示するのは1976年以来的のこと。あらし君の愛くるしい表情や伸び伸びとプールを泳ぐ姿は、来園者はもちろん動物園職員も楽しませてくれました。

このほか、雪の動物園では初めて「雪の動物園まつり」を1月11日に開催。雪の動物園では行っていない動物とのふれあいタイムや記念撮影、エサやり体験などを行い、寒い中足を運んでくれたお客さまに動物たちとの特別な時間を過ごしていただきました。さらに、園内飲食店や売店利用者を対象とした抽選会も行われ、大盛況となりました。

8/3 コモンマーモセット メス1頭死亡確認。
8/5 ワオキツネザル メス1頭死亡確認。
8/7 ハクビシン オス(ドン)×メス(モコ)交尾行動確認。
8/10 アカカンガルー 性別不明1頭出生確認。(ジュンコの仔)
8/12 チリーフラミンゴ 性別不明1羽孵化確認。(オス桃橙×メス赤)
8/13 アフリカゾウ オス、メス採血実施。(部位:オス左後肢、メス右耳裏)
8/18 ラクダ 園内散歩訓練。来園者の記念撮影にも興奮することなく
落ちていた。
8/20 アカカンガルー オス(トマノスケ)×メス(ミロ)交尾行動確認。
マーコール メス1頭死亡確認。(2014生まれ)
8/22 ハクビシン メス(イチコ)、メス(モコ)にインプラント埋没手術実施。
8/23 トナカイ メス(ロナ)、リードトレーニングを初めて実施。
抵抗なくスムーズ。
8/25 ニホンザル オス1頭死亡確認。(2014生まれ個体)
8/27 トナカイ メス(ロナ)、初めて外へ連れ出す。
ダイアナモンキー (老メス)、病院で入院中の個体をサル舎へ戻す、トラブルなし。
8/30 コモンマーモセット オス(ススキ)、日中のみオス(つかさ)と同居実施。
チンパンジー オス(ボンタ)、メス(ジェン)とトラブルになり噛まれる。
9/3 アフリカゾウ メス(花子)、採血実施。(部位:右耳裏)
9/7 チンパンジー オス(「J」太郎)、初めてまんまタイム実施。特に問題なく反応。
9/8 アフリカゾウ 交尾確認。完全な状態で長く続く。
9/9 トナカイ オス(ルドルフ)、青草の採食充実による健康状態向上を
目的にキリン展示場で放牧開始。
9/11 マーコール 全頭へ駆虫薬の投薬開始。
9/12 アフリカタガミヤマアラシ ウェルカム動物舎展示個体、交尾した可能性あり。
9/13 キリン オス(カンタ)、非常に弱いが追尾行動確認。
9/15 トナカイ オス(ルドルフ)、体重測定実施。41.97kg(9/9計測)→
45.70kg 3.37kg増。
追尾行動確認する。ここ数日繁殖行動が度々観察されている。
3羽の健康チェック実施。体重:オス(シロ)1.34kg、
メス(モコ)1.82kg、メス(コロン)1.68kg
9/17 ダイアナモンキー 若いペアの交尾行動確認するが、老メスが邪魔をし不完全となる。
9/21 チンパンジー オス(ボンタ)、まんまタイムで着地に失敗し右肩から落ちる。
怪我はないが落ち込んでいた。
9/22 キリン オス(カンタ)、初めて採血成功。
9/23 ラクダ メス、園内散歩実施。来園者がそばで写真撮影したり
触ったりしても興奮することなく落ちていた。
9/24 アカコンゴウインコ 孵化92日目、巣箱から出て採食行動確認。
9/25 コクチョウ オス(カール)、メス(ティップ)搬入。
9/30 レッサーバンダ メス(陸)、夕方介添え歩行する。1ヶ月ぶりに自ら外へ出る。
10/5 アカカンガルー オス(モモタロウ)死亡確認。
10/7 ボニー メス(アルファ)とメス(セレナ)装蹄師による四肢削蹄実施。
10/8 カビバラ オス1頭搬入。(埼玉県こども動物自然公園)
10/12 インコ舎 防寒対策用サッシ戸設置。
10/13 マーコール メス1頭死亡確認。(2012生まれ)
10/14 モモイロペリカン メス(右緑)、下顎の骨が折れる。捕獲し入院させる。

10/17 ファンボルトペンギン 採血、マイクロチップ埋め込み作業実施。
マーコール メス1頭死亡確認。(2009年生まれ)
10/21 キリン オス(カンタ)、2回目採血に成功する。今後も
トレーニングにより定期的な採血を目指す。
10/22 ニホンイヌワシ 体重測定実施。(風雅:3.35kg)、(千秋:3.45kg)
10/26 アカカンガルー 性別不明1頭出生確認。(サキコの育児囊より顔出し確認)
10/30 ニホンザル 全頭個体識別および健康チェック作業実施。
11/1 プレーリードッグ オス1頭死亡確認。
トナカイ メス(ロナ)1頭死亡確認。
11/2 トナカイ オス(ルドルフ)とメス(サクラ)の同居実施。
11/5 キョン メス(アム)1頭死亡確認。
11/7 ニホンイヌワシ オス(風)体重測定。3.05kg
11/8 ワライカウセミ メス(緑)、東京都多摩動物公園へ搬出。
レッサーバンダ メス(陸)1頭死亡確認。体重3.74kg
11/9 ファンボルトペンギン 展示場工事のため22羽を動物病院へ移動。
11/18 キョン オス(リュウビ)1頭死亡確認。
11/19 アカカンガルー メス(ミロ)死亡確認。育児囊に仔が生存していたため
人工哺育開始。
キョン オス1頭死亡確認。
エミュー メス1羽搬入。東京都多摩動物公園より。
11/20 ニホンイヌワシ オス(信濃)×メス(たつ子)、鳴きが多くなり、巣材いじり確認。
11/21 アカカンガルー メス1頭死亡確認。(11/19生まれの人工哺育個体)
アカカンガルー 性別不明1頭出生確認。(クミコの仔)
11/29 ファンボルトペンギン 交尾行動確認。
ボリビリスザル 体重測定実施。(メス:すず690g、メス:イチ590g、
オス:ゲン計測不能、メス:おはき620g)
12/1 オオハクチョウ 性別不明1羽死亡確認。
12/3 キョン メス(ハナ)1頭死亡確認。
12/4 アフリカゾウ 新人担当者による、メス(花子)への馴致訓練
(直接給餌作業)開始。
ウサギ群 全頭ボニー舎へ移動。
12/6 ツキノワグマ 冬ごもりに向け餌の減量実施。
12/8 ワタボウシバンシエ 性別不明1頭出生確認。同日食害にて死亡を確認。
モモイロペリカン等 フライングケージにて展示しているモモイロペリカン等を
越冬のため全羽捕獲し、室内収容する。
12/9 ツキノワグマ オス(稔)、インプラントモジュール埋め込み手術実施。
12/10 アカカンガルー 性別不明1頭出生確認。(トマコの仔)
カナダヤマアラシ メス(メープル)死亡確認。
12/18 ツキノワグマ 本日より獣舎に入らずモニターでオスの様子を確認。冬ごもり。
12/19 ホンドリス メス2頭死亡確認。
トナカイ オス(ルドルフ)体重測定実施、54.20kg。
前回計測時より12kg増。
12/20 ゴマファザラシ オス(アラシ)1頭搬入。鶴岡市立茂水水族館より一時借り受け。
12/24 ニホンイヌワシ オス(信濃)×メス(たつ子)今期初の交尾時期特有鳴き声
確認。交尾は不完全。
強めの追尾行動確認。
キリン オス(信濃)×メス(たつ子)完全な交尾と思われる鳴き声確認。
12/30 ニホンイヌワシ 午前よりファンボルトペンギン群と同居。
12/31 ゴマファザラシ オス(シゲタ)、体重測定及び血液検査実施。体重9.66kg
タンチョウ オス、メス採血実施。(部位:オス左後肢、メス右耳裏)
アフリカゾウ

かたばた通信

退職にあたって

飼育展示担当 渡辺 一

昭和48年4月、秋田市役所に18歳で入所し、最初に配属されたのが秋田市児童動物園、今の千秋公園の中にあつた小さい動物園でした。その年の9月に現在の大森山動物園ができた。動物の大移動がありました。ライオンを檻から輸送箱に移し変える時に足が震えていたことを、今でも鮮明に覚えています。20歳に異動で動物園を離れ、12年後再び大森山動物園へ戻ると、サル山とラクダ舎が新たに作られていました。その時は、トナカイなどの草食動物を担当しました。

数年後、ゾウとキリンの導入計画が進み、キリン担当として北海道の帯広市動物園で約2ヶ月間の飼育研修を行いました。平成3年3月、ついに秋田へキリンが来ることになり、東京都多摩動物公園からオス1頭、メス2頭のキリンの移動を担当しました。東京から秋田までの約600キロ、大型トラックに乗って高速道路を時速50キロでゆっくり、ゆっくり、24時間かけて走りました。到着時、市民の皆さんや報道関係者など多くの人に迎えられ、びっぴりした記憶があります。

新しい動物を担当する職員は、その動物をお見合いさせ、結婚、出産、仔を嫁に出すことで、一人前として認められます。これは、人間社会と変わりません。私も飼育員として、その職務を果たせたのではないかと思います。

ここ数年は、飼育作業よりも動物舎の整備や看板工作などの仕事が多く、自称渡辺造園士木として作業してきました。約30年間、動物園の仕事ができたのも各動物園のかたがたや大森山動物園OB、現スタッフのおかげだと感謝しております。長い間ありがとうございました。

渡辺さん
ありがとう!



お客さまの声

●園内を走る親子連れに声をかけると「ゾウはこっちですか?」と訪ねられました。「ゾウの餌やりは10時から」と書いてあるため、売り切れになると思い走ってきたとのことで、すぐには売り切れないことを説明すると安心していました。お客さまは「私たち、北海道の旭川から来ました。北海道にはゾウが近くても帯広に1頭しかいなくて、子どもがゾウを見たいというので、どうしても見せたくて…、親子でゾウに会えることをとても楽しみにしている」と話していました。再び園内で再会した時にはお子さまが「楽しかった!ゾウが一番好き!」と大満足の様子でした。また、「餌やりに500円も費やしちゃいました!」と話していました。

●キョンの前で「この動物は何ですか?」と質問されました。お答えすると、「種名板が見えなくて分からなかった。」と言われました。

●ゼニタナゴについて、夜観るときれいだと言われました。

●正面ゲートを尋ねてきた女性を案内していると「夜の動物園すごいですね。ライオンのまんまタイムに見とれていたら、友達とはぐれちゃいました。今日は早しか食べなかったけど、楽しかった」と満足そうに話していました。

●チンパンジー舎でキーパーに反応したボンタを見た家族連れの女性から「お世話する人をちゃんと分かるんですね。明後日あるチンパンジーのお誕生会には誰でしたっけ?」と聞かれ、リコですと返すと「そうそう!リコちゃんだったね!」と何かでチェックして来園したように話していました。

●仙台から旅行中のお客さま(親子)が、「ゾウ屋外展示場は身近に見られてすごく迫力があるし、餌やりができてとても楽しく、来園して良かった」とのことでした。「他の動物たちもいきています」と話していました。

●アシカのトレーニングを見ていたお客さまが「すごいね〜」と言いがら楽しそうに話していました。特にアシカがニツと笑う様子を見た時は、すごく笑っていて喜んでいただけたようです。

